

薩摩青雲丸

第4号
鹿児島水産高等学校
薩摩青雲丸
指導教官

FINAL STAGE ~最終章~

船上生活も残すところあと数日！成果を集大成

沿岸航海4-5

十一月二十二日、三次航海最後の寄港地となる静岡県清水に入港し、現在停泊中です。長崎出港後に九州南方海域の天候悪化が予想された為、入港は一日前倒しとなりました。短期の航海でしたが、太平洋沿岸は船舶交通量も多く、実習生が沿岸航法技術を習得するには最適な環境でした。静岡に三泊した後、二十五日に出港し帰路に就く予定です。

軍艦島と船上から献花黙祷する実習生



世界遺産「軍艦島」歴史の光と影 今なお残る戦争の爪痕に何を学ぶ

「戦争は絶対やってはいけないと思った」そんな声を聞いた。戦争実体験のない我々が子供達に戦争当時の惨状を語り伝えることの難しさをつくづく感じる。原爆被爆都市長崎の南西沖合に浮かぶ「端島」は炭鉱の島として栄えたことで名高い。一方で島内には防空壕や弾痕など、戦時中の爪痕も残る。被弾して沈没した石炭運搬船もあった。世界文化遺産登録で一躍脚光を浴びる通称「軍艦島」だが、知られざるエピソードも数多くある。出港直後、島を間近に臨む海域に船を静止させ、献花に続き一分間の黙祷。海上に静かに佇む孤島の廃墟を眼前に、生徒達は何を思うのか。当時に思いを馳せる静寂の時。机上の平和学習では得難い時間となった。

平和学習

長崎への寄港を機に、平和学習を行いました。原爆投下や軍艦島に関する歴史など、戦争について自ら

甲板部/機関部の各部署で実践訓練を受ける実習生



見学クルーズ

新型コロナウイルス感染症防止対策により、様々な制限や制約を設けている今年度の乗船実習ですが「生徒達に何か想い出を」ということで、保護者の皆様方の計らいもあり、清水寄港中に貸切クルーズ船での湾内クルージングが実現しました。船上

実習生を前に調べ学習の結果を紹介する山口虎太郎君



調べて出港後の船上慰霊式に臨みました。

シリーズ 第三弾 若き機関士の素顔



乗組員の先輩方と一緒に船内の食堂で昼食をとる花木機関士
11月21日

機関士・花木竣脩(二十三歳)
▽平成三十年本校専攻科修了、同年着任▽乗組員最年少▽趣味はキャンプ・ライブ観戦・ショアジギング・エギングと多岐にわたる▽過去には20kgのブリと25kgのイカを岸壁から釣り上げた実力を有する▽座右の銘は「百聞は一見にしかず」▽好きな芸能人はムロツヨシ▽着任から4年目になるが、現在も日々先輩方から学ぶばかりと謙虚な姿勢を崩さない▽川辺出身

指導教官の目



富士山をバックにクルーズ船の前で11月23日

一ヶ月余りに及ぶ第三次航海実習も残り六日となりました。実習の成果はもとより、全員が事故や怪我無くここまで到達できたことに指導教官として安堵しているところですが、残り数日、しっかりと実習を集大成して帰りたいと思います。なお、入港翌日は下船式を実施したのち生徒解散とします。お忙しい中とは存じますが、生徒送迎よろしくお願い致します。「薩摩青雲丸新聞」は、本紙をもって「最終号」とさせていただきます。